

南丹市地域公共交通会議
議 事 録

南丹市地域公共交通会議事務局
(南丹市企画政策部地域振興課)

南丹市地域公共交通会議（平成28年9月16日開催）議事録

1. 招集年月日 平成28年8月23日（火）
2. 開催年月日 平成28年9月16日（金）午後2時00分～午後4時00分
3. 開催場所 南丹市役所1号庁舎3階会議室
4. 委員の総数及び出席者数並びにその氏名
 - (1) 委員の総数 19名
 - (2) 出席者数 16名
 - (3) 出席した委員の氏名 別紙出欠状況のとおり
 - (4) 傍聴者 なし

5. 議事の経過の要領及び議事別の議事事項

堀江部長	<p>お待たせいたしました。本日、委員の皆様には大変お忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>定刻になりましたので、只今より、南丹市地域公共交通会議を開催させていただきます。</p> <p>私、4月1日付けの人事異動で企画政策部長を拝命いたしました堀江長と申します。本日の司会進行をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>始めに、今回、各組織の異動により新たに委員とられました皆様の紹介をさせていただきます。</p> <p>南丹市議会 総務常任委員会 委員 面村 好高 委員です。</p> <p>南丹市PTA連絡協議会 副会長 中野 修委員につきましては、本日ご欠席の連絡をいただいております。</p> <p>南丹市老人クラブ連合会 副会長 名古 友弘委員です。</p> <p>南丹市校園長会 中学校代表 殿田中学校長 福西 茂樹委員です。</p>
------	---

	<p>近畿運輸局 京都運輸支局 首席運輸企画専門官 道久 聡委員です。</p> <p>京阪京都交通株式会社 代表取締役社長 阪本 和宏委員ですが、本日は代理で辻課長にご出席いただいております。</p> <p>以上の方を代表して、西村委員に委嘱状の交付をさせていただきますので、前へお進みください。</p> <p>松田副市長より交付させていただきます。</p>
市長代理 (副市長)	(西村委員へ委嘱状交付)
堀江部長	<p>他の委員の皆様には、時間の関係上大変失礼ではございますが、机の上に委嘱状を置かせていただいておりますので、ご確認のほどよろしく申し上げます。続きまして、事務局の人員が新たになりましたので、ご紹介します。</p> <p>企画政策部長 堀江長 企画政策部 地域振興課 交通対策係長 猪奥 慶 です。よろしく申し上げます。</p> <p>それでは、南丹市公共交通会議松尾会長からご挨拶をお願いしたいと思います。</p>
松尾会長	<p>皆さんこんにちは。委員の皆様にはお世話になりますが、よろしく申し上げます。公共交通については、地域の人口増減で利便性に格段の格差が出てまいりますが、その格差を最小限にするよう努めることが行政の仕事であると考えております。南丹市に限らず、高齢化、過疎化が進む自治体においては、一層格差が広がっているのが現状でないかと考えております。免許返納を進める一方で、公共交通が整備されていないのでは、高齢者の外出支援を阻むこととなります。南丹市の公共交通には、民間による路線バス・タクシー、市営バス、デマンドバス、福祉有償など色々な形でお世話になっておりますが、一昨年、当委員会に置いて公共交通の見直しを提言しました。市民ニーズを掌握するためのアンケート調査を実施し、お手元の資料として用意しております。スクールバスについて本市は、スクール専用便の地域と混乗便の地域、どちらも存在します。財政的にも厳しい環境に置かれておりますが、それぞれの立場を超えた新しい取り組みについては、全国的に見ても素晴らしい事例があります。事務局において、新しい取り組みを模索している所でございますけれども、JR においても、市内で格差があります。園部以北の利便性向上が課題となっております。日吉駅から美山のバス路線は外国人観光客</p>

	<p>の増加により、利用実績の低下をまぬがれた路線と言えます。豊かな自然を活かした集客など、新たなニーズを活かすことで、利用率を高め地域交通の問題を解決することも可能であると考えております。園部から美山への直通路線も必要ですが、中に JR を挟むことで以北の利用率向上につなぐことも必要だと考えます。首都圏の地下鉄は、乗継により時間の短縮や利便性向上が行えるようになっております。都会のように行きませんが、それぞれの交通をつなげることで、最小の経費で最大の効果を得ることも可能と思っております。今後一層の皆さまのご支援ご協力をお願いしまして、あいさつとさせていただきます。</p>
堀江部長	<p>ありがとうございました。それでは、条例に基づきまして、会長に議事の進行をお願いします</p>
松尾会長	<p>はい。それでは、初めに出席者数の報告をお願いします。</p>
事務局	<p>南丹市地域公共交通会議の委員数 19 名に対し、出席委員数は現時点で 16 名でございます。条例第 6 条第 2 項の規定により本会議が成立していることを報告します。</p> <p>なお、本日、南丹警察署交通課長 谷口委員の代理とし谷口係長、京阪京都交通株式会社 代表取締役社長 阪本委員の代理として、辻課長、南丹市教育委員会教育長 森委員の代理として、岸本次長に、それぞれ出席いただいております。また、南丹市 PTA 連絡協議会副会長 中野委員、南丹市社会福祉協議会事務局長 山内委員より、欠席の連絡をいただいております。林委員におかれましては、所要により、少し遅れておられます。以上です。</p>
松尾会長	<p>それでは、議事に移ります。「運行路線の追加登録について」を協議します。事務局より説明を求めます。</p>
事務局	<p>資料確認及び資料に沿って美山町の府道バイパス建設に伴う運行路線追加及び上久保バス停の移設について事務局より説明。</p>
松尾会長	<p>ただいま事務局から説明がありましたことについて、みなさんのご意見、ご質問は受けたいと思います。何かございませんか？</p>
松尾会長	<p>実際の運行はいつごろからか？</p>
事務局	<p>道路供用開始が 10 月 5 日、竣工式が 10 月 22 日と聞いており、それに合わせて運行を行っていただけると考えている。バス停建屋の移転については先に標柱のみを移転させ、建屋自体の移転はもっと先、ということで地元と調整をしている。</p>
松尾会長	<p>ほかにございませんか？</p> <p>意見がないようですので、協議内容について、表決をお願いいたします。お諮りいたします。</p>

	「運行路線の追加登録について」は協議案のとおり合意することにご異議ございませんか。
委員	異議なし。
松尾会長	ありがとうございます。異議なしと認めます。 「運行路線の追加登録について」は、合意されました。 次に、「南丹市内のバス交通の現状と課題について」を協議します。事務局より説明を求めます。
事務局	「南丹市内のバス交通の現状と課題について」及び、「南丹市内の路線バスアンケート調査結果報告書」について、資料により説明。
松尾会長	ありがとうございました。委員の皆さまから、ご意見、ご質問がございましたらお願いします。アンケートの自由記述欄でも市民の方から色々なご意見を頂戴しております。
西村委員	バス交通の現状と課題についての説明で、外国人観光客が増加しているとあったが、運賃収入のうち外国人観光客はどれくらいいるのか？
事務局	利用者数自体は減少傾向だが、収入が増えており、運賃収入の高い、長い区間を乗る観光利用者が増えたので、運賃収入については回復したと考えられる。グラフとして資料作成はしたが、外国人の人数については数字としては持っていない。市内観光入込数と運賃収入のグラフを分析して、判断した。
松尾会長	今回の路線経路変更(園部・日吉⇄和泉から、園部・日吉⇄知見口に変更)で対応が変わったことなどあるか？
事務局	4月までは、下佐々江バス停での乗り換えが必要だったが、かなりの数の人が乗り換えをされ、特に待ち時間にゴミのポイ捨てやトイレ問題などの相談が地元から複数回あった。4月以降のダイヤの改正により、美山行の便に下佐々江での乗り換えをなくす事で対応した。先ほどの外国人観光客の資料については、グラフに落としたものがあるので後ほど配布させてもらう。
松尾会長	先ほどの乗り換え時の問題から考えても、観光客、それも外国人観光客が増えたことが読み取れると思う。4月からダイヤ改正し、直通で美山地域の知見口まで行くようになったので、その分では改善できたか考える。日吉駅でも結構乗客が降りているようだが？
事務局	中国の正月の時期などは、乗り切れない数の乗客に来ていただいている状況もある。
下田副会長	外国語(中国語等)での案内看板は駅に設置してあるのか？どこで乗ったらよいか記載されているものなど。
事務局	日吉駅には、日本語、英語、中国語、ハングルで掲載した案内板があり、バスの中にも、主にかやぶきの里へ行くダイヤ一覧及び料金表を中国語で置いている。ただ、やはり言葉の問題で運転手となかなかコミュニケーションが取れず、苦慮していると聞いてい

	る。
下田 副会長	園部駅は？改札を出たところで、東口と西口どっちに行けば乗り場があるか、などの表示はあるのか。
事務局	園部駅については、現状日本語案内のみだが、先日学識者が来られ、指摘を受けたことをふまえ、英語の案内板を作成している所である。
西村委員	路線補助金（交付税）が採択される基準などはあるのか？
事務局	スクールバスとして対応している路線については、交付税の対象となっている。
西村委員	京阪京都交通神吉線は、利用者のほとんどが八木中学校に通う神吉地域の子供たちだと思うが、今後中学生の減少が推測され、利用減による更なる公費の投入増加が予想される。小学生の乗るスクールバスに中学生も乗って、スクールバスで小中学生対応とし、一般利用者分をデマンドバス形式にすることはできないのか？
事務局	スクールバスについては教育委員会の意向もあるが、路線バス担当者の立場からいうと、既存路線は地域住民にとって非常に大きいものであると認識しており、公共交通が無くなるということはまちづくりの観点から非常にマイナスになるので、死守していくべきものと考えており、路線維持のため色々な利用促進策を展開していきたいと考えている。デマンドは確かに利便性が高いという声もいただいているが、走れば走るほど経費がかさむ形態なので、「持続可能な公共交通」という面で考えた場合、あまり望ましい形態ではないと考えている。
松尾会長	教育委員会から何かないか？
岸本次長 (教育委員長 代理)	スクール専用として再編し、今委員からもありましたとおり、神吉地区については小学校の専用便を走らせている。中学生との混乗、一般との混乗などの課題は当初から想定しており、いずれ検討していかなければいけないと認識している。神吉地域だけでなく、南丹市全体でのスクールバス対応の在り方、対策を考えていかなければならず、公共交通の部局と協力して、市民にとって安全で便利で通学も一般利用もできるような体制にするのが一番良いと考えている。すぐにとはいかないが、このような形で検討していけたらと考えている。
西村委員	どこの地域も小学生についてはスクール専用で対応している所かと思う。せっかく走っているのに、合理的という言い方はあれだが、より良い形を検討してもらえたらと思う。資料により、平成22年度から平成27年度の利用者の減少率を見てみたが、所感としては園篠線や園部八木線の減少率が顕著であると感じる。事務局として、市内公共交通の路線の中で厳しいと感じている路線はどこか？

松尾会長	少し答えづらい部分もあるかもしれませんが、事務局として答えられる範囲でお願いします。
事務局	現状の認識として、バスについてはいずれの路線も厳しいものであると考えている。この後提案させてもらおうと思っていたが、合併後10年が経過し、運賃体系、ダイヤを含む全体的な見直しをする時期に来ているのではないかと考えている。
松尾会長	学校はスクール専用便となっているが、なるべく学校活動の中での移動手段は公共交通を使って動いてほしい。例えば胡麻郷小学校の児童は、中学生になれば列車通学になるのでその体験も含め、殿田地域や他地域への移動は列車を使うなど。その分については市が負担をする形で、利用率を上げていくのが一つのやり方と考えており、事務局にも常々頼んでいる。今ある公共交通の路線を、南丹市内での移動に使うといったやり方を進めていってほしい。
岸本次長 (教育委員長 代理)	今ある専用バスを使っていくのが現状であるかと。今後はそういった体系も検討し、進めていきたい。
吉田委員	日吉にいるのだが、バスを見ていると乗っている人が非常に少ない。バスをもっと小型化するなど、地域によって大きさを変えていったらよいのでは。
松尾会長	事務局の来年度の計画も含めて、説明をお願いします。
事務局	小さいバスの運行ということでご意見をいただきましたが、日吉地域においてはスクールバス混乗の形で運行しており、朝夕にはかなりの数の生徒の利用がある。昼間の時間帯にはどうしても少なくなるが、スクールをメインとして考えるとある程度の大きさのバスを走らせる必要がある。美山地域では11人乗りのコミュニティーを導入し、マイクロバス等も路線によって運行させている状況である。やはり乗っていただく事が公共交通を守っていく一番のことであるので、交通教育などのモビリティ・マネジメントの取り組みを導入していきたい。全体的には、利用客が減少し、経費が増えているのが現状であるので、大規模な見直しを考えている。来年度、予算要求をしていくなかで、大学の学術支援を受けて路線バスの交通体系の見直しを行うことを予定している。予算の事もあるので、議会や財政部局の承認を受けたいうえで実施していくことになるが、方向性について委員の皆さまのご意見をお聴きできたらと思っているので、よろしくをお願いします。
松尾会長	今大学で公共交通を先行している部局があるので、そこの協力をいただきながら2年計画で見直しを行うことで事務局が準備をしている。私としては、大学だけでなく、地域住民も巻き込んで課題解決に向けられるようにできたらと思っている。

	できるだけ地域も巻き込む形で進められたら良いものができるのではと考えており、この委員会でも意見をいただけたらと思う。
岩松委員	今後少子高齢化が進むので、先の社会情勢を踏まえた形で構築してもらえたらと思う。
事務局	京都府では、京都大学の中川先生が交通政策研究ユニットを組織しておられ、事務局の2名でもユニットが開催する研修を受けたところである。そこがバス交通活性化支援事業として実施しておられ、綾部のあやバスなどの実績がある。名古屋大学の加藤先生は京都府が委託され、今年度府北部の形成計画を作成する予定であり、南丹市でも一定連動していけたらと考えている。
松尾会長	行政のシステム上、まだ予算も出ておらず具体的な話はできないが、当委員会でも以前から抜本的な見直し、新しい交通体系の構築を諮問している所であり、空のバスが走っているというのは良い状況ではないので、できるだけ皆さんが乗ってもらえるような交通体系が望ましく、委員の皆様の見解も都度聞きたいと思っているのでよろしくお願いします。
道久委員	交通会議では利用者が参加いただく事が大事である。委員の方には旧町ごとに代表で来てもらっている人もいると思うので、住んでいる旧町中心で、それぞれ公共交通に対してのご意見をいただけないか。
松尾会長	旧町代表の委員で、お気づきの点があればご発言ください。
吉田委員 (日吉)	以前に地元の団体でまちづくりを考えるワークショップを開いたが、その中で9人乗りくらいの車が、電話があればすぐに多目的で動けるような形はどうかという意見があった。千葉県松戸市のすぐやる課のような、未来志向だが要請があればすぐに動ける体制が構築されていけば良い、といった意見がワークショップ内が出た。面白いと思ったので、一つの意見として述べさせてもらう。
奥村委員 (園部)	日々バスを見ていると、昼間の乗降客が少ない。今回のアンケートを基礎に、バスのあり方を考えてもらえと思うが、一気に変えるのではなく、地域の声を聴きながら少しずつ変えていってもらえたらと思う。
道久委員	地元の中でバスの利用に対する取り組みなどはあるか？
奥村委員 (園部)	地域の声をまだ拾いきれていないので、委員として、今後の反省も含め、地元の声を聴いていけたらと考えている。
谷委員 (八木)	デマンドバスは利用者が多い。便利になったという声も聞く。利用が増えれば増えるほど市の負担は大きくなるが、どちらかに絞るとすればやはり「便利」だという利用者の想いを優先してほしい。

<p>下田委員 (美山)</p>	<p>鶴ヶ岡にいるが、公共交通が無くなるというのは市民にとっては非常に大きな不安である。小さな拠点の関係で、日常生活に困らない設備を地域内に整備する取り組みが進められており、そこに人を集めてなんとか生活に支障が出ないように取り組みを進めている。鶴ヶ岡のみであり、高齢者と障害者に対象を絞っているが、地域内を運行する無償運送も行っている。路線バスとデマンドバスが走っていない時間帯であれば、電話一本で車を走らせるようにしている。振興会で、タナセンに年間委託をしており、安全運転への指導や運転手への指導、車両の点検も定期的に行っている。平成27年度から本格実施しており、利用者の状況は2日に1人といった状況である。10年もすれば、もっと利用は増えていくと考えており、地域で高齢者を見守っていく体制を作ることによって進めている。今の取り組みは鶴ヶ岡地域の話であり、美山町ではそれぞれの地域で色々な取り組みにより生活のできる体制を作っていくとしている。美山町全体で、それぞれの地域の実態に則したあり方を検討し、より良い方向へ進めてもらえたらと思う。</p>
<p>道久委員</p>	<p>今の鶴ヶ岡の無償運行の運営主体は？また、鶴ヶ岡地域からどこまで行くのか？</p>
<p>下田委員 (美山)</p>	<p>運行は鶴ヶ岡地域内のみで、運営主体は鶴ヶ岡振興会である。経費は自治会費の中から出している。</p>
<p>松尾会長</p>	<p>これからの交通体系は、末端の部分は鶴ヶ岡の方式で行い、幹線路線につなげていくのが一番良い方法であるかと考えているが、車両を購入する時だけ行政が支援し、その後の支援はなしというのはネックである。運行経費に対しても一定の支援を、今走っている路線を減らすのならば、その分を補助に回すなど、そういったことも含めて行政が関わる部分、地域が担う部分を明確にしていくことが良いスタイルであると思う。幸い日吉町の胡麻地域で小さな拠点を計画しており、モデル的な、最初から行政が関わって行う形式を研究してほしいと提言しており、モデルケースから全体の地域に広がっていくと考えている。やはり地域に任し切りで、車を買うのみでは地域にという形ではしんどいと思う。</p>
<p>松尾会長</p>	<p>女性会のほうから、何か意見は無いかな？</p>
<p>大嶋委員</p>	<p>各地で色々な取り組みを聞かせてもらって、一定思ったことがある。社会福祉協議会が、病院への送迎を登録制で行っていると聞いているが、公共交通に関わってくところなので、どのような方がどれくらい利用しているかを、ある程度事務局でも把握しておいた方が良いと思う。そういった実態も把握し、今後の公共交通について考えていってもらえたらと思う。</p>
<p>松尾会長</p>	<p>私どもの方からも、全体を考える際は福祉部門についても考えるようには指示しているが、所管が違うので、事務局で一定把握している部分があれば言ってほしい。所管部署が違うと難しい面があるかもしれないが。</p>

事務局	詳細については把握していないところが実態であり、移動ということでは交通の分類であるので、今後調べさせていただく。
松尾会長	老人クラブからは何か情報等あればお伝えいただきたい。
名古委員	高齢化が進んでいることは確かだし、免許を返納された方も増加していると聞いている。これでバスが少なくなったり無くなるとしたら大変なことで、そういった心配は多くの方が抱えていると思う。しかし、高齢者もバスをあまり利用されていない。老人クラブでも外に出てくださいという案内はよくしており、集会の中でバスを使ってあちこち行って、多くの人と関わるのが健康増進につながるという話もしている。できるだけ高齢者の方がバスに乗れるような体制をお願いする。アンケートにもあるように、バスの停留所が遠く、そこまで歩いていくのが大変という意見も会合で出ている。そういったことも含めて、検討していただきたい。
松尾会長	皆さまの意見を一通り聞かせていただいたが、大きいバスが走っているという話で、通学時にどうしても大きいバスが必要ということならば、対策として通学の時間には小型のバスを2台走らせ、昼間は1台で運行する体制もできる。少しの工夫で効果的な事ができる。本日は委員の皆さまより貴重なご意見をいただいたが、他には何かあるか？
道久委員	利用促進を事業者の方にも頑張ってもらい、事業者と地元と事務局で一带となっていて、実際に運行していて見えてくることを、実運行事業者である京阪京都交通にお話いただきたい。
辻委員 (阪本委員代理)	利用促進という部分では、南丹市からの説明があったように園児の絵を掲示し親御さんに見に来てもらうといったことを行っている。ほか、亀岡市や京都市でも利用促進の取り組みをしておられる。乗っていただいたら便利さも分かってもらえるかなと思う。沿線で生活されている方の利用が減ってきているというのが、どこの路線でもあるので、外からの観光客に乗ってもらって利用を増やすという取り組みも行っている。一つ例を挙げるなら亀岡のコスモス園や市民プール沿いに国庫補助路線が走っているが、臨時バスを走らせ、観光地へのアクセスを便利にし、並行する八田線の底上げを行っている。
道久委員	外国人対応は何かあるか？
辻委員 (阪本委員代理)	京阪京都交通でも園部駅からかやぶきの里までの観光バスを走らせており、平成27年の1年間は約1万2千名のご利用があり、外国人、特に台湾の方が多く、平成27年度は約60～70%が外国人の利用であった。連動して、市営バスの方でも外国人の利用は増えていると思う。運転手はなかなか外国語をしゃべれないので、車内に英語や中国語で作った案内物を掲示したり、車内放送の外国語版を流したり、園部駅の案内表記を外国語にするなどして対応している。
松尾会長	それぞれの部署、施設でそれぞれ促進策を打ち出してもらっているが、それらが一体

	となつて行えたら、より効果的であると考え。行政も、京阪京都交通さんと連携しながら行えたら、利用もより増えると思う。
道久委員	京都に4月から赴任したが、市バスに乗ってみると外国人がいっぱいで、乗ろうとするバスが満員で乗れなかつたりする。これから少子高齢化が進むと、交流人口の増加が必要となり、観光客の利用促進というのは重要なテーマである。京都市内にはすごく大勢の観光客がいるので、そういった人を、地元らしさを維持しながら引っ張ってくる取り組みも行っていくべき。
松尾会長	幸い企業や人口誘致など担当している部長がいるので、ここでお話を聴けたらと思う。
事務局	定住人口だけでなく、交流人口も増やそうという取り組みが進められている。美山の方の知名度は上がってきており、お客さんも増えてきている。まだまだ南丹市内に見どころがある事を知っていただいて、そこにお客さんが来てもらえる体系を構築していくことが重要であると考えているので、次年度以降の抜本的見直しなどに当たりましては皆様のご意見をいただき、段階的に進めていきたいと考えている。
松尾会長	地域で何か始めることによって人が集まり、地域のものが動いてくるということが言われており、そういった中で公共交通会議はさらに役割が重要になると考えている。他に発言はあるか？
奥村委員	本会議でいただいた資料により、ようやく市内の交通の現状が見えてきた。単年度はわかるが、以前の経過的なものが見えてこないというのが今までの委員としての感想だった。しかし、議事が無ければこの委員会は開かれないので、市営バスやデマンドバスの利用者数などを三カ月に一回でも、我々委員にニュースとして提供いただければ、委員としての認識を新たにできると思う。回数も1年に1回ないしは2回ほどになり、委員の自覚が薄れてしまうこともある。こういったデータをいただく事が委員としてありがたいと思っているので、事務局の方で検討願う。
松尾会長	色々な思いがあり、今回も書面協議のところを急きょ開催させてもらったところであるが、できるだけ会議を開き、委員の方へ情報提供させてもらう事が良い形であると考えている。他にご意見等ございませんか？無いようでしたら、ここで閉会とさせていただきます。
司会	松尾会長、ありがとうございました。それでは、下田副会長に閉会のごあいさつをいただきたいと思ひます。下田副会長、よろしくお祈ひします。
下田副会長	本日は出にくい時間帯にも拘らず、出席率も高く、内容の深い協議ができたのではと思ひつております。公共交通のあり方については地域の实情に則した移動サービスをどう実現するかが大きな柱でございますので、抜本的な見直しや、三カ月ごとに乗車人員等の

	<p>データを委員宛に送ってもらうという意見も出ておりましたので、地域の実態に合った交通網を皆さまと協議し、より良いものになるようにと願ひまして、閉会のあいさつとします。 ありがとうございました。</p>
--	--